

第2回 鹿部町総合計画策定審議会議事録

開催日時 令和4年7月21日(火) 17時00分～20時00分
開催場所 鹿部町役場2階 会議室
出席委員 17名(吉康郎会長、松本善一副会長、千葉光義委員、高橋茂夫委員、中村綾乃委員、若山唯敏委員、能戸仁士委員、平井悦子委員、金子ふさえ委員、吉英樹委員、佐々木博史委員、矢野和成委員、松本広美委員、石割恒彦委員、内山勝之委員、内田隆委員、原田光雄委員)
欠席委員 3名(松川正委員、松本大樹委員、山田大春委員)

- 1 開会
- 2 議事

(資料1 第6次総合計画策定基本構想(素案)(1～10P)について事務局より説明)

委員

6ページに合計特殊出生率とありますが、どういう意味か教えて下さい。

事務局

合計得出生率というのは、一人の女性が一生のうちに何人生むのか、過去5年の18歳から45歳だったと思いますが、女性の年代層に分けて何人産んだかを5年間の統計で、その平均を出したのが合計特殊出生率になります。

委員

資料でわかるようにしてください。特殊と書いているから特殊なことだと思う。

事務局

書いているところに、わかるように書くようにします。

委員

今の関連で、SDGsとかデジタルトランスフォーメーションとか、英語の言葉がたくさん出てくるのですが、前回の第5次計画の時は下の方に解説が載っています。しかし文字が小さいです。年寄りにはちょっとつらいものがあるので、用語集というものを巻末にでも、普通の大きさに載せていただけたらわかる人がたくさんいると思います。僕はネットで検索して調べますが、そういう手段が無い人も沢山いると思うので出来れば用語集みたいな物をページの下に載せるのもいいのですが、是非巻末に載せるようにした方がよいのではないかと今日の資料を見ても思いました。是非ご検討をいただきたい。

事務局

只今、ご指摘ありました件については、策定委員会の中でも議論がありました。このごろ国もそうなの

ですが、横文字だとか次から次へと新しい言葉が出てきまして、それが広がってくると、当然、うちの事業の中にも新しい言葉があるので、その記載方法について、どのような載せ方をしたらよいだろうかということで、横に入れるべきか、それとも従来のように下に※1※2という記載にした方がよいのかという議論が出て、その書き方も全体の字が小さくなって見えにくくなるという意見もあり、とりあえず策定委員会の中では下の方に別記した方がよいのではという意見でしたが、今委員さんからは、ここに載せないで、別に用語だけを載せた部分で出した方がよいのではないかという意見で、ちょっと参考にさせていただいて、案を作る時点で、下に載せた時にはこうなる、別にしたらこうなる例みたいなものを作成してもう一度皆さんに見ていただいてどっちがよいというのを決めていただきたいと思いますので、ちょっと検討させて下さい。

委員

いくつか聞きたいのですが、まずあの1ページ。このピラミッドに対して、基本構想、基本計画、実施計画とありますが、ピラミッドにしている理由を聞きたいです。基本構想というのは土台ですから本来であれば1番下にあるべきものだと私は思う。その上に載っているのが計画であって、実施要領だとかが上がってくるのだと思うのですが、まずなぜピラミッド型であるのかということと、この建物の考え方が、基本構想というのが本来一番下になるのではないかと。これは絶対動かせない物ですよという意味で、1番下になってよいものだと、こういう意見と基本構想というのは一番偉いというようなふうに見えてきます。ピラミッド型を変えないというのであれば一番下にあってしかるべきではないかなと。

もう一つは、基本計画と実施計画とあるのですが、計画計画とあるので、基本計画があればその次は実施要領ではないですか。この計画をどうして達成するのかという意味で、実施計画じゃなくて、実施要領、具体的な活動方法をそういう言葉に置き換えた方が分かりやすいのではないかと思います。

もう一つは、8ページですが、人口ビジョンという言葉と人口推計がありますが、人口ビジョンでいうと2040年には2,467人、人口推計でいうと1,712人とすごい差があるのですが、人口ビジョンと人口推計というのは、どういう計算で出てきているものなのか、そして、またどうしてこの2つが必要になってくるのか聞きたいと思います。

事務局

まず1点目のご質問につきましても、お答えさせていただきます。

最初にご質問がありました、基本構想、基本計画、実施計画についての土台であることを含めれば、基本構想が下、まさに土台の部分になるのではないかと、というご指摘になったかと思います。確かに、基本構想が土台に当たる部分であるという認識は、まさにその通りのことではあると思いますが、基本構想は一番源になる目標でそれを実施するために、先ほどの基本目標という表現もありましたけれども、現在4つを想定しておりますけれども、基本構想が定める全体目標を実現するために、各分野での施策を設定する。それで、その各分6つの各分野の施策を実現するために、基本計画や実施計画があるということで、数という意味でいいますと、下に広がりが出てくるということになります。組織を連想していただいても結構かと思います。民間会社でいえば、社長といくつかの部長がいて、その下に課長がいて係長がいて一般職がいてと、分野的に考えると、事務事業の数なんかもそうなのですが、上から下に降りていくというような意味で、一般的にこのような表現が国などでも採用されているということですが、あのご

指摘のお考えにつきましては、あの他の自治体におきましても、ご指摘を受けた経験もございます。基本構想が土台というご認識自体は全くずれたことではございません。この表現の仕方ということで、このような形をとらせていただいております。

委員

今のお話だと、やっぱりこう上にね、下は一般職ですと言われましたけども、いわゆる行政がこういう形になっています。総理大臣がいて、各大臣がいて、それから議長がいて課長がいて、一般職がいる。それがこの形です。今私たちがやろうとしているのは、あくまでも土台は何ですか。そこから始まっていけば私は反対しません。私自身の考え方ですから。

委員

参考までに、今の意見をサポートすると。ハッキリ言うと今の意見に賛成で、2000年代後半から一般的な伝統的な大企業を含めて社長のポストは下に書いているところがあります。社長、執行役員、事業部長、部長、課長、一般社員、一般社員の方が実行含めて大切ですよと、社長はアクションを含む土台を作りますよ。という方なので、今おっしゃるとおりまさにそれだと思います。上から降りてくることも大事だけれども、上が逆に土台になることを考えて、実際に実行して花を咲かせるのが一般社員や一般の町民ですよと。それを国としては、地方公共団体として町民にアピールしたいならば、町民に幸せになってもらって、主体的に動いていただきたいと思うならば、逆のような聞き方をするというのも、案件とすることは必要じゃないかとは思いますが。

事務局

先ほどの私の発言が不適切だったかもしれないと思います。

委員

不適切です。

事務局

上が重要で、下が重要ではないという意図は全くありませんでした。

事務局

事務局の方の纏めた理由ですけども、このピラミッド型にしたという部分で、基本構想というのは町を目指す姿ということで、それを山で例えたら頂上という意味です。コツコツやっていって、最終的に山の頂上に来たのが目標なので、目標を山の頂上にして下から事業をやっていって、いずれ頂上の目標に向かっていくということで、構想を1番上にあげたということですが、ただ今、委員の方から「逆じゃないか」という意見がありますので、もう1度持ち帰って、策定委員会等に諮りながらですね検討させていただきたいと思います。

あと、基本構想、基本計画、実施計画の部分の実施計画については、実施要領という記載の方がよいのではないか、という意見もありました。これも、今のピラミッドの関係と併せて、もう1度策定委員会の

方に戻して協議させていただいて、次回を審議会の方に報告させていただきたいと思いますので、どうかご理解をお願いいたします。

事務局

それでは、もう1つのご質問、8ページの人口の関係について、私の方から補足をさせていただきたいと思います。人口ビジョンで示された人口と、赤で示されたこれからの推計の数字が、逆が大きいというような指摘かと理解をいたしました。これでは、2つの要因があると考えています。1つは目指す人口ビジョンの数字というのが、推定値を基に設定をしたものですが、国勢調査5年毎に実施されております。国勢調査の2015年の前のと、2015年の国勢調査結果が発表された時に、その数値を利用して推定されたものでした。これに対して、今回新たに推定をし直しました赤線の方は、更に5年遡りまして、2年前、3年前、2020年の国勢調査の結果をベースにして、推定をしたものです。これが2つの推定、数字の違い、1つの大きな要因になっています。

それからもう1つの要因は、人口ビジョンは2015年の国勢調査が公表された時点で推計したものをベースにしておりますが、これはまず国の方針でもありましたが、人口ができるだけ減らないような努力をすることで、将来の人口を設定せよ、という基本的な考えがありましたので、当時の推計値をベースに、こういう事業だったら、この位の人口を目指そうというような、目標設定になっていたのが、青ということになります。当時の実際の推計値よりも若干、情報を修正した推計値になります。一方、赤の直近の2020年度の国勢調査結果を使用した推計、赤の数字につきましては、今申しましたような、いわゆる下駄を履かせたようなですね、あの数値を加算するようなことはしてございません。2015年から2020年にかけて、想定していたよりも人口の減少が多かったということを表して、2015年の推計と、2020年時点の推計で、若干の下方に振れるような結果もありましたので、それが反映されて、赤の数字になりまして、青と赤の差がかなり大きくなっているということでございます。

委員

言葉で色々言われますが、数字の上で、例えば生まれてくる人と亡くなっていく人の差とか、あるいは転入される人と転出される人の差とか、あるいは外国人が入ってくる、出て行くという差とか、そういうもので計算されたものではないのですか。非常に大事なことだと思います。将来の人口というのは。これを見ました、第5次計画を見たのですが、10年前と現在を比べてみると、500人ぐらい。やっぱり違います。少ないわけですよ。実際の方はそういったことは、やはり厳しく見ていかないと産業部分にしろ、何を考えるにしろ、人口で基盤大事だと思ひまして、あまりこう抽象的な表現になってですね、具体的にこういう計算でこうなりました、ということは説明できないのでしょうか。出来なければ出来ないうでいいです。

事務局

今の8ページは、先ほどの方に説明しましたように、国勢調査結果を基にした赤につきましては推計値です。人口増減はまさに今おっしゃられたように大きくは4つの要因です。出生、死亡、転出、転入、これらの結果の数値を基に推計されたものであるということです。

また、8ページでは、実際の人口の動きと、赤で示しましたような、直近のデータを使った今後がどう

なるかという推計の変化を示したところでありまして、これは将来の人口を定めるものではありません。将来、日本についての設定の考え方につきましては、後ろの方で再度事務局の方から説明があると思いますので、そちらの方で、また質問があればさせていただきたいと思います。

委員

ここで話してくれないの。どの辺の人口を頭に入れて話を進めていけばよいのでしょうか。これから。この 500 人の差がありあす。間くらいをとって考えていこうということでしょうか。科学的な根拠がないとおかしいのではないかと思って。

事務局

この計画を策定するにあたって、どの人口をもっていろんな施策を考えて行けばいいのかかかっていう話なのですが、これは後ほど 12 ページの方で説明させていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

委員

今説明して下さい。

(資料 1 第 6 次総合計画策定基本構想(素案)(11P)について事務局より説明)

委員

つまり人口ビジョンというのは、2015 年からの推計値。推計値というのは 2021 年か 2022 年に町勢が過去 5 年の減少幅が人口ビジョンよりも多かったの、それに基づいてコーホートの的に考えて出した数字。

先ほどの DX の説明と同じですが、用語がわかりやすいように、例えば人口ビジョンの下に「2015 年計算」で、推計値は「2022 年計算」とか書いてあると、5 年 6 年 7 年の間により状況が悪化しているとわかりますよね。私は読んでるのでなんとなくわかりましたけど、でも 2,242 人の推計値が今回、課題 1 から 3、そして可能性の 1 から 2 を考えて、実施計画をすることによって人口ビジョンにすると見えました。それが文書を読めば、それを体系的に理解すれば、意味はわかるけれども、実際考えなければならぬし、質問が出るということは、ここにいる方は優秀な方だと思いますし、町の立場を代表する。一般の町民の方だとかは、分かりづらいと思います。なので、何をすることによって、どの数字を目標にするのかというのが分かるようになればよいのかなと思いました。

質問ですが、10 ページの可能性 1 と 2 をやれば、鹿部町は救われると考えてよろしいですか。可能性 1 と 2 をより具体的にすることによって人口減の大幅減少を少しの減少で食い止めたい、3 千人に食い止めたいと考えたいということでしょうか。

事務局

ここに書いてある可能性については、今、委員がご指摘された、人口をある程度減らさないことの可能性の一つのメニューというかたちです。

委員

町の方々や町政の方々が考えることによって出てくるかもしれないということですね。

事務局

はい、そうです。

委員

ならよかったです。

町民の方に「可能性をやれば鹿部町は生き残りますよ」というふうに、自分の子供とか、孫とか、あと函館とか東京に出て行った自分の子供とか親戚に言えるのですかと。言えるような計画にしなければいけないと思います。それが我々の責任だと思うので。私も移住して常々感じていますが、1と2をやれば、もしくは3、4、5があるということですが、今出ていないということは、1、2よりインパクトがないという風にコンサル的に仮説が立てられるので、経営者としては。そうすると1と2で、自分の孫とか東京に出て行っているとか、若しくは先ほどのグラフでいうと、10代20代が町の外に出たいというのが5年前より増えているということなので、そういった方達を引き留められるような、魅力ある施策になるのかなと、それが町民に配られた第6次で取り組まないと、読んでもらうようにしないとけないのですが、読んでもらうときに、やっぱり帰って来ようとか、思ってもらえるのかなと、そこを考える、真剣に考えることが必要なんじゃないかなと思います。移住して数年ですけど、自分、大変危機感を持っているので、よくしたいと思うからリスク犯して、お話をさせていただいているので、是非よろしくお願いします。一緒に考えましょう。

事務局

ありがとうございます。今の意見も審議会から出た意見ということで、下の方に落として行きながら、肉付けをして報告したいという風に思いますので、よろしくお願いします。

委員

人口の推移、鹿部町の抱えている現状認識が振れられていないというのは、一つは技能実習生が多分100人くらい、いらっしゃるのかな、町民ですよ、中身的にそういう人が年々変化してきている、その辺はわかんないのですが、だから人口構成の中身が、それと、近隣と比べて多分、私も移住者ですが、移住者がおそらく500人位いると思っている。違うかもしれないけど。そうすると構造的なものが鹿部町はちょっと他の町とは違うのかもしれない。次に、それに対する色んな対策が出てくると思うのですが、その現状認識をキッチリ、どこにも触れられていないです。両方合わせたらそういう方が600人くらいいるということ。そこを認識した上で、色んなものを進められた方がよろしいのではないかなと、気になりました。

委員

前回にも言わせてもらったのですが、東川町には政策をすることによって、この10年で20%の人口

が増えている。単純に空港が近いからという理由ではないです。何か色んなことをやっているから、あそこまで沢山人が集まってくる。

(総務省 HP より地域おこし協力隊員数

R3 年度 6,015 名、R2 年度 5,560 名 (455 名増加))

(資料 1 第 6 次総合計画策定基本構想 (素案) (11~20P) について事務局より説明)

3 閉会